特集

ボランティア活動の意味

■平等に参加できる社会を

市長　小林さんは、市民協働社会というものにどのようなイメージを持っていますか。

小林　大学のときにボランティアで知的障害者にかかわる活動をやっていましたが、健常者、高齢者、障害者が、みんな平等に参加して、お互いに交流し、学べるような社会になったらよいと思います。

■ボランティア活動を始める動機

市長　ヨーロッパでは宗教に支えられて、神に奉仕するという考え方があります。日本人にはそのようなものが少なく、ボランティア活動をしようとすると難しいところがありますが、福田仁さんにとってボランティア活動を続けるよりどころは何ですか。

福田仁　ときには交通費だけでもということがありますが、無報酬だから委縮せずにできるのかもしれません。例えば、レクリエーション活動を無報酬で支援するということで誇りを持てます。

小林教子さん

市長　ボランティアを始める動機は、何だったのですか。

福田仁　10数年前、佐世保市社会福祉協議会が開いた第1回介護ボランティア講習会に参加したことです。当時は、高齢者介護や認知症などというものはあまり公になっていませんでした。市長のおっしゃるとおり、日本ではボランティアという言葉はあまり使いませんでしたが、意識してやってやるというのではなくて、手伝うという気持ち、一緒に何かをやろうという気持ちがあればよいのではないでしょうか。

　そして、人と接しているのが楽しいということがありますよね。楽しくなかったらできないでしょうね。

■仲間づくりが大事

市長　ボランティア活動については、「自分がはまり込むまでは、人がどうしてこんなことをやっているのかが分からなかった」という声をよく聞きます。だからボランティア活動というのは、とにかくまず参加して考えていただきたいと思います。自分の生きがいのためということもありますし、また、仲間と交流することで、ある程度の緊張感があるということも大事なことです。

　その点、せちばる原始村も、子どもたちの成長の過程で、物が無い生活とはどういうことかを教え、お世話をすることも緊張感があってよいと思います。しかし、この活動を広げていこうとすると、一人ではできません。そのために自分と同じような指導者を作っていくとなると、NPO法人などの団体をつくり、仲間を増やしていくことも必要です。

福田仁　子どもたちに「皆さんの前に見えるスタッフは10人ですが、実際は、草刈りや池の足場を作ったり、食事の材料を無料で提供してくれたり、百人以上の皆さんがお手伝いをしています」とよく言っています。

市長　小林さんは市民活動交流プラザで、どのような仕事をしたいと思っていますか。

小林　まだスタートして2カ月ほどですが、まず、団体同士の情報交換と交流を図り、そして、大学時代にNPOの活動にかかわったことがあるので、その経験を生かしていきたいです。

福田省吾さん

市長　福田さん、五蔵太鼓には、後継者はいますか。

福田省吾　太鼓をやりたいという理由で、地元に就職した人もいます。子どもたちを育成し、これからは佐世保市の五蔵太鼓として活動したいと思います。

合併後の市政に望むこと

福田　仁さん

■新制度に慣れるには時間が

市長　合併後の市政についてもご意見をお聞かせください。

福田仁　世知原ではごみ収集の分別方式が変わり、まだ慣れないところがあるようです。また、旧町の組織が、佐世保市の支部となり、手続きなど手間がかかる場合もあります。

市長　佐世保の制度に合わせていただいており、そういう意味では、慣れるまで時間がかかります。今しばらくご辛抱をお願いいたします。

　50年前、本市と東彼杵郡江上、崎針尾両村が合併しました。今回のような支援措置もなく、地元の反対もありましたが、今では東彼杵郡だと思っている人はいないでしょう。

■安心して子どもを生み、育てる環境づくり

福田省吾　高齢化対策と同時に、少子化対策というものに目を向ける必要があります。わたしたちが安心して佐世保に住むためにも、安心して子どもが生める施策をお願いします。

市長　安心して子どもが育つ環境づくりには、学校ばかりでなく、地域、家庭が一緒になって取り組まなければなりません。そのために、通学合宿など学社融合事業により、社会生活を学ばせます。

　また、小学校で「少人数指導支援事業」を行っています。この事業により、児童の状態に応じたよりきめこまやかな指導ができます。県の方でも少人数指導に伴う先生の配置を行っていますが、それでも足らないので、本市単独で不足分の非常勤の先生を雇っています。

光　武　顕　市　長

　幼稚園は園児数が減少し、苦しい経営状態です。一方で、親も経済的に苦しいんですね。そこで、平成14年度までは、私立幼稚園の園児一人当たりに年間四千円補助していたのを、平成15年度から一挙に12倍の四万八千円にしました。保護者の中には、苦しくて途中で幼稚園をやめる人もいるという話を聞き、改善しました。近隣市町の関係者は大変驚いています。

　また、7年前に作った子ども発達センターでは、小学校に上がる前の乳幼児期の段階で障害があるかどうか子どもの状態をチェックし、診察、訓練を行うことができ、市単独の施設としては、県内で本市だけです。

　高齢者福祉では、県内に先駆けて、「小規模多機能型居宅介護拠点」の整備を進める予定です。各地域の拠点施設で、訪問介護、デイサービス、ショートステイなどの3大在宅サービスを総合的に提供します。

　これらの資金ををどこから捻出するかというと、行財政の改革や組織の見直し、さらに業種によっては行政サービス業務の委託などを行い、その分を教育、福祉、環境、観光、市民協働のまちづくりなど重点施策に使いたいと思っています。

■市民協働のまちづくりと新生佐世保市の出発

市長　市民協働という考え方も、市民の皆さんや市職員たちと協議をしながら進めてきました。

　そして市民活動交流プラザ設立にこぎつけてきましたが、同じ旧戸尾小学校跡地に、させぼエコプラザもスタートしました。粗大ごみを補修して再生品化し、市民に使っていただこうというものです。低価格で販売しますので、あっというまに売れています。再生品化は、市民による運営委員会が行なっており、今後は障害者団体にもお手伝いしていただく予定で、市民協働による施策の一環となります。これらが軌道に乗れば、市役所も変わってきます。本来、市政は市民のためにあり、その財源は有効に使わなければなりません。

　それから、佐世保の旧市域にあって、吉井・世知原地区にないものは、海ですね。佐世保の小学生は、3年生のときには必ず西海パールシーセンターに行き、水族館で魚類の観察などをします。その交通費を市が負担しています。吉井・世知原地区の子どもたちもこれからは行けます。

　また、今年度末、本市は外海離島の宇久町とも合併する予定です。合併後は、宇久町の海辺で子どもたちを交流させることも考えています。いわゆるブルーツーリズムです。

　小学4年生になると、今度はハウステンボスに行きます。海から木立、林と循環する自然の循環と再生を勉強します。

　そしてこれからは、吉井地区の先史遺跡・福井洞窟を勉強するということになります。また、世知原地区では茶摘みの体験ができます。街で育った子どもには、なかなか体験できないものですね。

　市内各地区にあるいろいろな資源を大いに活用しながら交流を図り、一体感のあるまちづくりをしていきたいと思います。